

会 議 録

| | | | |
|--------------------|---|---|-----------|
| 会議の名称 | 平成20年度（2008年度）第2回豊中市教育センター運営委員会 | | |
| 開催日時 | 平成21年（2009年）2月19日（木） 15時00分～16時30分 | | |
| 開催場所 | 豊中市教育センター | 公開の可否 | 可・不可・一部不可 |
| 事務局 | 学校教育室 教育センター | 傍聴者数 | 0 人 |
| 公開しなかった理由 | | | |
| 出席者 | 委員 | 若菜委員 青柳委員 北尾委員 柿本委員 角井委員 景山委員 佐渡委員 檜原委員 橋本委員 | |
| | 事務局 | 所長 副所長 副主幹 各係長 研究・研修係 | |
| | その他 | | |
| 議題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度の事業中間報告 ・ 次年度に向けて | | |
| 審議等の概要 (主な発言要旨) | 別紙のとおり | | |

平成 20 年度（2008 年度） 第 2 回 運営委員会記録

豊中市教育センター

日 時 平成 21 年（2009 年）2 月 19 日（木） 15 時～16 時 30 分
会 場 豊中市教育センター 研修室
出席者 若菜委員長 青柳副委員長 北尾委員 柿本委員 角井委員 景山委員
佐渡委員 檜原委員 橋本委員
十河所長 鈴木副所長 大屋副主幹 井角係長 佐藤係長
欠席者 井坂委員 越桐委員 青木委員 藤原委員 生駒委員
豊島委員 津田委員
進 行 佐藤係長
傍聴者 なし

（資料確認）

1、開会の挨拶

2、案件

（1）本年度の事業中間報告

- ・ 教育センター各係の目標
- ・ 教育センターの利用状況について
- ・ 研修会数と参加状況
- ・ 教育相談研修状況

（研究・研修係）

- ・ 研修参加人数の推移
- ・ 初任者研修について
- ・ 実践論文について
- ・ ニューステージ研修について
- ・ 研修 3 4 5 について
- ・ 研究協力員について

（教育相談係）

- ・ 内容別相談件数状況
- ・ 教育相談総合窓口における相談件数状況
- ・ 教育相談研修について
- ・ ジュニアメイトについて

(養護教育係)

- ・ 進路相談の状況について
- ・ 教職員研修について
- ・ 専門家チームによる相談・巡回相談について
- ・ 医療的ケアについて

(情報・科学教育係)

- ・ 研修について
- ・ 理科展について
- ・ タッチ・座・サイエンスについて
- ・ サイエンスクラブフェスティバル、親子理科講座について
- ・ サイエンスカフェについて
- ・ キッズ科学実験講座について

(2) 次年度について

(教育相談)

- ・ 相談の複雑化、長期化について
- ・ 研修について
- ・ 学校支援の充実について

(養護教育係)

- ・ 業務の多様化、多忙化について
- ・ 巡回相談について
- ・ 医療的ケアについて

(研究・研修係)

- ・ 初任者研修について
- ・ 研修の支援について
- ・ 中核市移行に向けての研修について

(情報・科学教育係)

- ・ 校内LANについて
- ・ 情報モラルについて
- ・ 科学教育の振興について
- ・ 英国クリスマスレクチャーについて

質疑・意見

- ・ 初任者研修で、豊中が大事にしてきた人権教育を否定する発言があったみたいだが、どうなっているのか。初任者の研修なのだから、授業者の検討してほしい。
初任者研修の時の授業者が、道徳の授業は資料などを活用して行なうべきだと発言されたが、豊中が大事にしてきた人権教育は道徳教育に通じるものだと研究協議で話をしている。
- ・ 豊中市の小・中学校の教員の総数は何人か。夏期研修会の中村先生の講演に 200 人の参加では少なすぎる。何が原因なのか。
途中で日程がかわり、学校の校内研修と重なったことが原因だと思う。
- ・ 梶田先生や田尻先生でも参加が少ないように思う。学校との関係で効果的に研修会を実施する方向を探る必要がある。科学教育においても、イベントだけでなく学校の理科教育にどう還元するのか。小学校英語教育とか支援教育とか、重点的に研修をしばって、数少ない研修のチャンスに先生たちが参加するようにしてはどうか。
学校の理科教育について言えば、大阪府の理科支援員制度を多く取り入れている。
- ・ 新任の先生で、形から入る教師が多くなっているように感じる。形ができれば、立派な教師だと錯覚しているようだ。昨日校内研修で、一年間の研究について話し合った。読む力、話し合い活動、音読、読解からの柱立てをなぜするのかを話した。教材分析の大切さを知り、授業に対する心構えがわかったようだ。障害児研修や部落問題の研修も何のためにするのかを学ぶ必要がある。そういう研修が大切だと思う。
- ・ 若い人が積極的に研修に参加しないように感じる。初任者研修が終わったら、感覚的に一人前になったと思っているのではないか。研修会のレベルが高いこともある。初任者の研修は長いスパンで考えたい。
- ・ 学校の雰囲気にもよるのではないか。学校に刺激が少ないのかもしれない。
- ・ 若い先生がどんどん入ってきて、私たちがどう伝達したらよいか課題である。私たちの年代も成長しなければいけない。研鑽を積む必要がある。
- ・ 鹿児島大学の教員対象の研修では、土曜日に自由参加で学んでいる先生たちがいる。大阪にそういう雰囲気がないのでないか。拠点校を作っても研修を活性化してはどうか。

- ・ 教育相談で長期化する相談をなんとかしないといけないのではないか。一定の枠をきめて、継続が必要か見極め、見立てをするようにしている。
- ・ 第三者を入れて見極めをしたらよい。専門の先生に入ってもらっている。

- ・ 保護者側に立てば、長期化して次に行くところがない。専門家のところへ行くのか。ここだけの問題ではない。続けていきたいと保護者は願っている。幼稚園ではスタートだが、小学校へ上がると不安につながる。

- ・ 子どもさんのことより保護者に心理カウンセリングが必要である。保護者の方が不安になっている。聞いてもらうことで安心する。親子で相談に来ていた方で、子どもさんが終わっても、お母さんだけが続いたことがある。子育てや養育の不安がある。

- ・ 相談には組織でルールを決めることが必要だ。相談者には自立心を持つようになってほしい。

3、閉会の挨拶

前を向いて豊中の発信を望む。